

火山と

湖の謎を探る



2007年

12月22日(土)

仙台国際センター 白樫1

http://www.sira.or.jp/icenter/access_transportation.html

14:30 ▶ 17:00

※入場無料

主催：東北大学東北アジア研究センター

後援：地域研究コンソーシアム (JCAS)

お問い合わせ

東北大学東北アジア研究センター 事務室

(022) 795-6009

<http://www.cneas.tohoku.ac.jp>

火山の謎?

谷口 宏充 (東北大学東北アジア研究センター 教授)

中朝国境の活火山白頭山の過去と今

中朝国境に位置する白頭山(中国名:長白山)は、今から約200万年前に火山活動を開始し、その後、数多くの噴火を繰り返してきた活火山です。とりわけ10世紀に発生した爆発的噴火は、過去2000年間で世界最大級のものであり、中国や朝鮮ばかりでなく、平安時代の日本の東北地方や北海道も災害にみまわれたと考えられています。今、白頭山では地震活動や土地の隆起など、噴火活動の再開を示唆するような現象が発生しています。白頭山の地勢からして、噴火が発生した場合、政治や経済を含め東アジアの様々な状況に対して影響を与え得ます。本講演では、火山学的な事項にのみ焦点を絞って、白頭山の過去と今を語ります。

湖の謎?

鹿野 秀一 (東北大学東北アジア研究センター 准教授)

西シベリアの塩性湖を探る

ロシア連邦西シベリアの草原と白樺林が混在する広大な地域には、いくつもの湖沼が点在しています。その中でも琵琶湖の3倍ほどの湖面積をもつチャニー湖沼群は、流出河川がない内陸湖であるため、奥部にいくにしたがい塩分が高くなる塩性湖でもあります。このチャニー湖沼群において、気象衛星NOAAの衛星画像を利用した湖面積や湖岸植生の季節変化をみることで、湖沼群を取り巻く環境変動を調べています。また、ここに生息する魚がどのような餌生物を食べているか、その餌生物は何を食べているかという食物網について、生物の炭素と窒素の安定同位体比を測ることで、塩分の異なる水域と食物網の関係について探っています。